

りそな環境助成

オンライン交流「バリ島と徳之島・佐渡島の子どもたちのまなびあい
～自然と共生する持続可能な地域づくりに向けた環境学習～」

2023 年度活動報告書

一般社団法人あいあいネット 山田理恵

横浜市中区北仲通 3-33 関内フューチャーセンター内

(1) 事業背景

インドネシア・バリ島にある西部バリ国立公園は陸地と海水面あわせて約 19,000 ヘクタールあり、マングローブ林、熱帯モンスーン林、熱帯雨林、熱帯サバンナ林等の多様な生態系を育んでいる。175 種の植物(14 種が希少種)が確認され、7 種の哺乳類、2 種の爬虫類、105 種の鳥類、120 種の魚類等、さまざまな動物が生息している。一方、同国立公園の隣接地域にはあわせて 6 つの村があり、農業や漁業および観光業を中心として、約 3 万人が暮らしているが、現金収入のための密猟や違法伐採、ゴミの不法投棄の問題があり、自然保護地域を管理する国立公園事務所にとって大きな問題となっていた。公園内に生息するムクドリ



一種カンムリシロムクはバリ島の固有種だが、森林の減少や飼育鳥としての乱獲等が原因で、一時期は野生下での生息が危ぶまれるまで減少した。



こうした状況において、2008 年から一般社団法人あいあいネットは西部バリ国立公園事務所に協力して公園現場職員をコミュニティ・ファシリテーターとして育成し、公園と周辺村落住民の協働による「自然環境保全」と「経済的向上」の両立した活動の展開を支援してきた。コミュニティ・ファシリテーターらの活動によって、近年、公園周辺の村々では、森林パトロールや植樹、マングローブツアーやトレッキング、地場産品の土産物店、ゴミのリサイクル等に取り組む住民グループが結成され、活発に活動するようになった。カンムリシロムクの飼育下繁殖と野生復帰も進み、2022 年には野生下の生息数が約 450 羽まで増加し、集落内で頻繁に目撃されるようになってきたが、自然保護地域外である集落の内外までカンムリシロムクの生息域を広げるため

には、村の住民たち自身が自然環境保全に関心を持ち、カンムリシロムクの保護や生息地再生に

取り組む必要がある。

そこで 2020 年度から、あいあいネットのインドネシア側の仲間たち(NGO 活動家や国立公園職員有志)が現地団体 IINET(2022 年 10 月に法人化し名称を F2BLEST に変更)を結成し、活動の一つとして、「自然と共生した地域づくり」の世代を超えた展開を目指して、村の小学校や子どもたちを巻き込んだ環境学習や自然保護の実践活動に取り組み始めた。現在 3 つの村で小学校と連携し、環境学習やカンムリシロムクのモニタリング活動等が進められている。ただ、子どもたちによる実践的な環境学習や自然観察・モニタリング活動については、現地においても新しい取り組みであり、そのノウハウが蓄積されているとは言い難い。また急速な近代化が進むインドネシアにあって西バリの子どもたちも例外ではなく、身近な自然への



の関心や自然と共生してきた伝統的な暮らしへの親近感を持ちにくくなっている。こうした中で、村の未来を担う子どもたちが、自分たちの地域にある自然や暮らしのあり方を再認識し、将来、自然と共生する地域を作っていけるようになるのか、持続性のある取り組みが必要とされている。

一方、あいあいネットは設立当初から、「”いりあい”と”よりあい”(地域自然資源の共同管理)」を手掛かりの一つに、自然と共生する地域づくりについての学びあいを追求している。西バリでのプロジェクトにおいても、国立公園の現場職員や村のリーダーを日本に招き、「地域に根ざし、自然と共生する活動」を実践している諸地域を訪問し、学びあいの活動を行ってきた。訪れた地域の中には、官民協働でトキの野生復帰を進める新潟県佐渡島や、世界自然遺産に登録された中で住民主体の自然保護とエコツーリズム振興に取り組む鹿児島県徳之島があり、地元で活動する市民グループの人たちは、今でもインドネシア・西バリの活動に関心を持ってくれている。これらの地域では、小中学生等を巻き込んでの自然観察・環境学習・生息地保全の実践活動も盛んに行われている。そこで、両地域と西バリとを繋ぎ、子どもたちが主役になってお互いの活動の成果や悩みを紹介しあい、学びあうことで、西バリでの持続的な活動展開に繋げるとともに、自然と共生した地域づくりを目指す佐渡島や徳之島で活動する人たちへのエールとなるのではないかと本事業を形成するに至った。

(2) 事業目的

自然と共生した地域づくりを目指すインドネシア・西部バリ国立公園周辺村と、同じ課題を抱える日本の地域(新潟県佐渡島、鹿児島県徳之島)を結び、子どもたち(小学校高学年～中学生・高校生)による実践的な環境学習や自然観察・モニタリング活動の成果や課題について経験交流・学びあいを行うことで、地域の未来を担う子どもたちの「自然と共生した暮らし」への関心を高め、持続的な活動展開へつなげる。

(3) 事業内容

事業の柱は、西バリと徳之島・佐渡島をオンラインで繋いだ、子どもたちの交流と学びあいである。

① 徳之島と西バリの学びあい

西バリのムラヤ村クラタカン集落で活動する住民グループ「学び舎スマートキッズ」の子どもたち(小中学生・高校生)と、徳之島の小学生・中学生・高校生をオンラインで繋ぐ。

「学び舎スマートキッズ」は現地の NPO である「F2BLEST」の指導のもと、村の周辺で観察されるようになった野生のカムリシロムクのモニタリング活動や、カムリシロムクが好む樹種の植樹、さらに家庭ごみを使った有機肥料作り等に取り組んでいる。また集落内でカムリシロムクが観察できる場所を中心に、ガイドトレッキングのルートを開発して、村落エコツーリズムにも取り組み始めている。

一方、徳之島では地元の NPO である徳之島虹の会が長年、地域の自然環境保全やエコツーリズム振興に住民主体で取り組んできており、島内の小中学校等での環境教育等を通じて若い世代の育成も積極的に行っている。また、島では子どもたちによる集落のガイド(われんきゃガイド)活動も進められており、「自然と共生した暮らし」を守り、受け継いでいく若い世代も育ちつつある。

この 2 つの地域をオンラインでつなぎ、交流と学びあいの機会を提供して、子どもたち自身の学びを深めるとともに、持続的な活動に繋げたい。

② 佐渡島と西バリの学びあい

西バリのギリマヌク村の「公立ジュンブラナ県第 6 イスラム小学校」では、F2BLEST の協力のもと、カムリシロムク保護と「環境文化保全村」に向けた実践的な環境教育が 4 年生～6 年生を対象に始まっている。そこでは、カムリシロムクの生態や環境保全に関する座学に加えて、家庭ごみの堆肥化やカムリシロムクの好む樹種の苗床作り、カムリシロムクの巣箱製作や設置等の実習も行われ、子どもたちが積極的に参加している。

一方、佐渡島では長年、トキの野生復帰とその保護活動が、環境省や自治体に加えて、市民グループの活発な参加によって行われている。中でも NPO 法人トキどき応援団は、トキのエサ場としての水田の再生・整備・保全活動やトキのモニタリング活動等に長年取り組んでいる。また島内の小学校では 4 年生を中心にトキの生態や保護について学んでいる。

オンライン交流では、ギリマヌク村の第 6 イスラム小学校と、佐渡市立新穂小学校とをつなぎ、それぞれの学校で環境や地域について学ぶ子どもたち同士が出会い、お互いを知り合いながら、交流を深めていく。

③ 日本から実践者の渡航による指導と交流

佐渡島及び徳之島で子どもたちを巻き込んだ環境学習や自然保護の活動に取り組む実践者 2 名が、あいあいネットのメンバーとともに西バ리를訪問し、現地で活動する住民グループや子どもたちと交流する。西バリで活動する地元の「環境ファシリテーター」や「ちびっ子ファシリテーター」を対象に日本での活動を紹介し、日本の子どもたちの声を伝えるとともに、西バリで行われている子どもたちによる環境学習や自然保護の実践活動に助言も行う。特に、佐渡島と徳之島の各地域で実践している、自然と共生した暮らしのあり方について、西バリの子どもたちや村の大人に伝える。

④ オンライン交流の深化

この事業の最終段階として、それぞれの地域での「自然と共生する暮らし」に関する子どもたちの学習や実践活動が、地域社会にどんなプラスの影響を与えているのか、大人を交えて共有する。西バリと徳之島、佐渡島の3か所を同時に繋ぎ、より深く経験の交流を行う。

交流会後のフォローアップ(子どもたちが学んだことを次の活動に活かすとともに、可能な形で3地域間の交流を継続する)も行う。

(4) 2022 年度の活動結果

2022 年度はプロジェクト 1 年目として、西バリ、佐渡、徳之島それぞれでオンライン交流の準備を行った上で、2023 年 1 月 1 月～2 月に下記のように西バリと徳之島・佐渡を繋いだ交流が実施された。

- ① ムラヤ村クラタカン集落学び舎スマートキッズの小学生と、天城町立兼久小学校 5～6 年生の子どもたちとの交流
 - 日時:2023 年 1 月 30 日(月)13:50 – 15:30(日本時間)
 - 場所:天城町立兼久小学校 5～6 年生の教室(日本側)、ジュンブラナ県ムラヤ村クラタカン集落の「学び舎スマートキッズ」集会所(インドネシア側)
 - 参加者:兼久小学校 5～6 年生 12 名、学び舎スマートキッズの小学生 8 名
 - 発表の内容:兼久小=徳之島の自然、食べもの、生きもの、歴史。クラタカン集落=カンムリシロムクの特徴や生態
- ② ムラヤ村クラタカン集落学び舎スマートキッズの中高生メンバーと、徳之島の伊仙町立犬田布中学校との交流
 - 日時:2023 年 1 月 31 日(火)14:15 – 16:05(日本時間)
 - 場所:伊仙町立犬田布中学校多目的室(日本側)、ジュンブラナ県ムラヤ村クラタカン集落の「学び舎スマートキッズ」集会所(インドネシア側)
 - 参加者:犬田布中学校全校生徒 64 名(うち発表は 4 グループ 23 名)、学び舎スマートキッズの中学生・高校生 6 名
 - 発表の内容:犬田布中=自然班、塩づくり班、マンゴー班、コーヒー班、クラタカン集落=カンムリシロムクってどんな鳥?学び舎スマートキッズの活動について
- ③ ギリマヌク村公立ジュンブラナ県第 6 イスラム小学校の 4 年生と佐渡市立新穂小学校 4 年生との交流
 - 日時:2023 年 2 月 7 日(火)10:35 – 12:20(日本時間)
 - 場所:佐渡市立新穂小学校 4 年生教室(日本側)、ジュンブラナ県ギリマヌク村公立第 6 イスラム小学校教室(インドネシア側)
 - 参加者:新穂小学校 4 年生 15 名、第 6 イスラム小学校 4・5 年生 15 名
 - 発表の内容:新穂小=小学校の紹介とトキについて学んだこと。第 6 イスラム小学校=バリ島や小学校の紹介と、カンムリシロムクについて。

(5) 2023 年度の活動結果

2023 年度はオンラインによる西バリ・佐渡・徳之島の子どもたち同士の学びあいに加えて、日本の現場で実践する活動者が西バリを訪問し、環境学習に参加する子どもたちとの交流や、環境保全

に関わる住民グループとの学びあいを行った。

1) 西バリの子どもたちによる環境学習活動

カンムリシロムクの生態や保護に関する子どもたちの環境学習活動は、ギリマヌク村のジュンブラナ県公立第6イスラム小学校や公立第1小学校およびムラヤ村の公立第4小学校やミフタフルウム宗教小学校で行われる他、エカサリ村やプジャラカン村の小学校でも実施に向けて準備が進んでいる。これらの環境学習では、座学に加えて、校外でのカンムリシロムクの観察、カンムリシロムクが好む樹種の苗床作り、有機ゴミの堆肥化活動等が実習として組み入れられていて、子どもたちが積極的に参加している。これらの活動は現地側カウンターパートである NGO「F2BLEST」が支援している。

2) 徳之島の実践者が西バリへ渡航し、交流や学びあいを実施

2023年7月、徳之島虹の会事務局長の美延睦美さん（むーこさん）があいあいネットの2名（山田理恵・長畑誠）とともに西バリへ渡航し、環境学習に取り組む先生や子どもたち、F2BLESTのメンバーらと交流し、助言指導を行った。なお、佐渡の実践者（仲川純子さん）は体調不良のため渡航延期となった。現地での活動内容は次の通り。

7/26: 徳之島から成田へ移動

7/27: 成田⇒ジャカルタ、ジャカルタ泊

7/28: ジャカルタ⇒デンパサール。デンパサールから陸路で西バリへ。

F2BLESTのメンバーらと打ち合わせ

7/29: ギリマヌク村イスラム小学校訪問。生徒らと交流の後、先生たちと会合。

F2BLESTのスタッフやボランティアらに徳之島の経験を共有。

（佐渡の仲川さんもオンラインで参加して佐渡の活動について報告）

7/30: 村人によるマングローブツアーに参加。カンムリシロムク観察

ムラヤ村クラタカン集落でオンライン交流に参加した学び舎スマートキッズの子どもたちや住民グループたちと料理交流。

学び舎スマートキッズの子どもたちのガイドでカンムリシロムク観察。

7/31: 西部バリ国立公園事務所訪問、公園内を住民のガイドで散策。

公園内のカンムリシロムクを観察。エカサリ村の観光農園訪問。

F2BLESTのメンバーと振り返り。

8/1: 西バリからデンパサールへ移動

8/2: デンパサールで休息後、夜行便で成田へ。翌8/3に成田から鹿児島へ。

台風のため徳之島帰着は翌8月4日。

<むーこさんの感想>

バリ島は、徳之島の自然環境や生態系と類似し、人々の暮らしや島民性も隣の島ではないかと錯覚をおこすほど、親近感が湧く遠くて近い島であった。また住民や子どもが純粋でポジティブである。みんなで力を合わせて何かやろうとする気迫に満ちている魅力的な島でもある。

西部バリ国立公園周辺の集落では、学校、地域住民、ガイド、漁業、農業、集落青年など多様な分野で住民活動が充実している。このような活動は自発的に発生し組織化されている。

活動計画のための話合いの機会を多く設け、共同で牛を飼い果樹を育てるなど運営資金確保の取組みも行うなど、活動を活性化させる努力を積極的に行っており、集落のエネルギーや結束力を感じた。

その反面、初来島者でもすぐに目に付く、不法投棄ゴミの問題や交通マナー違反が横行しており、まだまだ発展途上を感じる面もある。

バリ島の主要産業は観光であり、この観光と農業や自然・環境保全活動などを結び付けた活動を充実することにより住民モラルも向上し、地域の発展につながるなどの可能性をたくさん秘めていると感じた。またバリ島には石油や電力など力を持った企業があるそうで、これらの企業や行政の民間活動支援にも期待したい。

今回のバリ島訪問は、同島の自然保護の役に立てればとの思いで快諾し、参加させて頂いたが、徳之島での活動や私自身の自己研鑽にもなる内容で、今後の徳之島虹の会の活動にも大いに参考にしたいと思った。

3) 佐渡でのオンライン交流の準備

2023 年 10 月 12 日～13 日、あいあいネット理事・山田理恵（本企画代表者）および同会代表理事・長畑誠が佐渡に出張し、本企画に協力いただいている NPO 法人トキどき応援団の前理事長・計良武彦さん、現理事長の仲川純子さんらとともに、昨年引き続きオンライン交流を実施する佐渡市立新穂小学校を訪問して、校長先生および 5 年生の担任の先生と協議した。今年度は双方の活動の発表に加えて、子どもたちがそれぞれ関心をもつ事柄について、自由に質問しあう時間を設けることとした。

4) 佐渡と西バリとのオンライン交流の実施

2023 年 11 月 16 日の 9:30 – 11:20（日本時間）、佐渡市立新穂小学校とジュンブラナ県公立第 6 イスラム小学校とを結んだオンライン交流を実施した。新穂小学校からは 5 年生、第 6 イスラム小学校からは 5 年生を中心に 4～6 年生が、各 15 名ずつ参加。テーマは新穂小学校は 5 年生の学習テーマである「佐渡の田んぼ・稲作」について。第 6 イスラム小学校からは郷土料理の「アヤムブトゥウ」の作り方やそこに使われるスパイスやハーブを育てる実習について。さらに両校の子どもたちが身近な暮らし等についてお互いに紹介あい、質疑応答する時間を設けた。両校とも前年度と同じ子どもたちが参加する形であり、お互いへの興味関心がより深まっていたようである。

なお本年度当初は佐渡・徳之島・西バリの 3 か所を同時に繋いだオンライン交流を考えていたが、佐渡から西バリへの実践者訪問が次年度に持ち越されたことや、本年度は佐渡⇄西バリ、徳之島⇄西バリそれぞれでお互いの関係を深めることに集中したい、という意向もあって、3 か所同時交流は最終年度である 2024 年度で行うこととなった。

（オンライン交流の録画： ）

5) 徳之島でのオンライン交流の準備

2023 年 11 月 27 日～28 日、山田理恵と長畑誠が徳之島へ出張し、現地での協力団体である NPO 法人徳之島虹の会の方々とともに、オンライン交流の準備を行った。今回の

対象校となる伊仙町立面縄小学校および同伊仙中学校を訪問して、内容および技術的な確認を行った。技術面では特に、良好なインターネット環境を構築するため、学校のパソコンで Zoom に繋ぐ可能性を確認した。

6) 徳之島と西バリのオンライン交流の実施

2024 年 1 月 25 日 13:45 – 15:30 に伊仙町立面縄小学校とムラヤ村第 5 小学校とを結び、同 1 月 26 日 14:05– 15:55 に伊仙町立伊仙中学校とギリマヌク村の公立宗教中学校とを結んで、オンライン交流会を実施した。

面縄小学校からは 5 年生 18 名が参加し、総合的な学習の一環として、学校のすぐ前の浜にやってくるウミガメの生態や産卵について調べたことを発表した。ムラヤ村第 5 小学校からは○年生 15 名が参加し、近くにある国立公園の森から学校にやってくる野生のサルのいたずらへの対策や、学校でのゴミ分別や堆肥作りについて発表した。また両校とも子どもたちがクイズを出しあって交流を深めた。

伊仙中学校からは○年生△名が参加し、「伊仙町の宝さがしエコツアー」「徳之島の農業の可能性」「世界遺産の森の生態系を守ろう」「世界の海をマイクロプラスチックから守ろう」という 4 つのテーマでグループに分かれて調べたことを発表した。ギリマヌク村公立宗教中学校からは○年生 15 名が参加して、学校にやってくる野生サルの害を防ぐために、(サルが餌とする)校内のゴミ処理について、堆肥化やプラゴミのリサイクルの試みを発表した。

(オンライン交流の録画：)

7) 西バリでのフォロー

2024 年 3 月 3 日～9 日、山田理恵が西バリを訪問し、現地で環境教育や住民グループ支援を行っている F2BLEST の代表・エリザベス氏とオンライン交流の成果や課題について話し合った他、オンライン交流に参加している公立第 6 イスラム小学校や公立宗教中学校を訪問して先生たちとの話し合いの場をもった。

(6) 2022 年度活動結果の総括

1) 日本からの実践者の渡航による現地での交流

徳之島で長年環境保護や環境学習に取り組む NPO 法人徳之島虹の会・事務局長の美延睦美氏(むーこさん)の西バリ訪問は、現地において大変好評であった。オンライン交流に参加している小学校や村の住民グループへの訪問を通して、子どもたちの環境学習の意義がより強く認識され、今後の活動への刺激となった。また現地で活動する NGO「F2BLEST」の事務所で、地域に根ざした環境保全やエコツーリズム活動に関する徳之島の事例報告と意見交換を行ったことで、F2BLEST のメンバーたちが自らの活動を振り返るきっかけになった。さらにむーこさん自身にとっても、「遠くて近い島」となったバリ島での環境保全に取り組む人たちとの出会いを通じて、世界自然遺産となった徳之島の「宝」を地域の人たちとともに守り伝えていく活動へのさらなる意欲につながっている。

2) オンライン交流の成果と課題

オンライン交流も 2 年目となり、参加する子どもたちや学校の側が、そのやり方に慣れてきており、内容を工夫しようという試みが見られた。1 年目とほぼ同じ子どもたちが参加した佐渡と西バリの交流では、新穂小・第 6 イスラム小の両校ともに発表にクイズを入れるとともに、その答えの数字を示す札も事前に用意していた。初めての参加となった伊仙町立面縄小学校でも、クイズを通じて徳之島と面縄小を紹介するスライドを準備した。また発表内容も、教室内の勉強に留まらず、第 6 イスラム小学校では郷土料理に使われるスパイスを調べ、自分たちで育て、料理し、さらにスパイスを県の展示会に出品する、という活動を紹介していた。伊仙町立伊仙中学校の子どもたちは地域の自然環境だけでなく、歴史や文化、産業について調べ、さらには海洋プラスチック問題も自分たちの暮らしと結びつけて発表していた。このように、オンライン交流に向けて、さまざまな調査や体験を行う活動が進められていった。この成果を受けて徳之島虹の会では、伊仙町教育委員会にアプローチして、同会の指導で環境学習を行う小中学校を増やす働きかけを行い、2024 年度には町内 5 校で行う予定とのことである。

一方、オンライン交流の課題としては、日本側の機材面の難しさが依然として残った。本年度は各学校に事前をお願いして学校のパソコンで Zoom が使えるようにしてもらったため、回線上の問題は殆ど生じなかったが、音声の接続がうまくいかなくなり、その調整に時間がかかる事態が伊仙中学校での交流の際に生じた。当方からの持ち込み機材と学校の機材との接続調整に時間をかける必要がある。一方インドネシア側は特に問題なかったが、こちらが準備したスピーカーフォンが小さく、会場が広い場合には遠くまで音声が届かない、という事態が予想されるため、参加人数が増える場合にはより大きなスピーカーの準備が必要となる。

3) 今後の可能性

今年度の交流を通じて、日本とインドネシアの環境学習の現場を繋いだ、子どもたち同士の繋がりが少しずつ深まった。また徳之島から実践者が西バリへ渡航したことで、実践者同士の経験交流も開始された。今後はこうしたオンライン形式の交流機会を持つことをきっかけに、それぞれの教育現場での環境学習がより深まることや、環境学習に関わる大人の実践者同士の学び合いが期待できる。またオンライン交流の方法論をさらに充実させて、より簡易に多くの学校で実施できるようなモデルに発展させていくことも考えたい。

(7) 次年度の活動予定

1) 日本からの実践者の渡航による指導と交流

2 年目に予定されていたが体調不良のため渡航できなかった、佐渡の「トキどき応援団」理事長・仲川純子氏とともに、前年も渡航した徳之島虹の会事務局長・美延睦美氏も西バリへ渡航していただき、現地での指導・交流を行う。この活動も日本語・インドネシア語で行われ、現地でのプログラムは F2BLEST がコーディネートするとともに、日本からあいあいネットメンバーが通訳を兼ね同行する。時期は 2024 年 11 月を予定。

2) オンラインによる活動交流会実施

初めて 3 地域 4 か所を結ぶオンラインによるリアルタイム・テレビ会議を実施する。今回は上記の仲川・美延両氏の渡航とあわせ、両氏が現地側の学校を訪問してその場でファシリテートしな

がらの交流を行う。参加するのは、前年に引き続き佐渡市立新穂小、徳之島・伊仙町立面縄小、そしてインドネシア側はギリマヌク村の公立第 6 イスラム小学校とムラヤ村の公立第 5 小学校である。各地域からの活動発表に加えて、発表に対する質問を各学校ごとに子どもたちで話し合っ
て考えてもらい、それをもとに質疑応答を行う。また可能な範囲で父母の参観を促して、それぞれの地域での「自然と共生する暮らし」に関する子どもたちの学習や実践活動について地域の大人たちとの共有を進める。時期は 2024 年 11 月を予定。仲川・美延両氏と同行するあいあいネット・山田理恵が現地で日本語⇄インドネシア語の通訳を行い、日本側（佐渡・徳之島）はあいあいネットのメンバーが現地NPOの方々とともにコーディネートする。

上記とは別に、前年度に実施した中学校 2 校（徳之島・伊仙町立伊仙中学校とギリマヌク村の公立宗教中学校）との間でも、オンライン交流を行う。時期は 2025 年 1 月を予定。どちらも現地のNPO（徳之島虹の会・F2BLEST）が中学校での環境学習を展開しており、その活動のさらなる深化に繋げていく。

3) 環境学習の拡大・深化

このオンライン交流会に向けて、各地域で地元団体の協力で準備を進める。学校の環境学習での学びとともに、これまでの交流を通して学んだこと等を子どもたちがまとめ、発表できるようにする。そして交流会後には、フォローアップ（子どもたちが学んだことを次の活動に活かすとともに、可能な形で 3 地域間の交流を継続する）も行う。なお、上記のプロセスや活動内容については、映像記録（子どもたちの活動の動画やオンライン活動交流会の録画）として残すとともに、編集したものを YouTube 等で限定公開することも考える。

以上



学び舎スマートキッズの子どもたちと話すむーこさん



料理教室(交流)でのむーこさん



F2BLEST の事務所で経験共有



オンライン交流に参加する第6 イスラム小学校の先生たちと



新穂小でのオンライン交流



新穂小でのオンライン交流



伊仙中でのオンライン交流